防災科研 topics

Topicsの詳細や、防災科研の最新ニュース、お知らせ、報道発表は、
防災科研Webサイトにてご覧いただけます。 https://www.bosai.go.jp

2025年度日本建築学会大会（九州）構造部門振動分野 若手優秀発表賞を受賞しました

巨大地変災害研究領域 地震津波複合災害研究部門の松本雄馬特別研究員が、2025年度日本建築学会大会（九州）構造部門振動分野 若手優秀発表賞を受賞しました。この賞は、日本建築学会年次大会の構造部門振動分野に関するセッションにおける学生・若手技術者などから優れた発表を選考し、若手による学会活動を奨励するために贈られる賞です。

【発表タイトル】
機械学習を用いた確率論的地震応答評価（その1）地震動生成モデルを用いた確率論的地震ハザード評価


賞状を持つ松本雄馬特別研究員

2025年度農業農村工学会優秀論文賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門の酒井直樹副研究部門長（大型降雨実験施設研究推進室長）が、農業・食品産業技術総合研究機構の正田大輔氏らとともに、2025年度農業農村工学会優秀論文賞を受賞しました。優秀論文賞は、農業農村工学会研究論文集に掲載された論文の中から、実践性・有用性が高く、今後の農業分野における技術や実務の発展が期待される優れた論文に対して、農業農村工学会より贈られる賞です。

【受賞論文名】
土石流の流入によるため池貯水時の堤体への作用荷重の評価


賞状を持つ酒井直樹副研究部門長

令和7年度インフラメンテナンス優秀論文賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの中村一樹センター長と上石勲特別研究員（受賞当時）が、JR東日本研究開発センター 防災研究所の林奈津子氏らとともに令和7年度インフラメンテナンス優秀論文賞を受賞しました。インフラメンテナンス優秀論文賞は、土木学会のインフラメンテナンス実践研究論文集に掲載された論文の中から、実際の現場での取り組みに基づき、実践性・有用性が高く、今後のインフラメンテナンス技術や実務の発展が期待される特に優れた論文に対して、土木学会インフラメンテナンス総合委員会より贈られる賞です。

【受賞論文名】
鉄道線路における積雪状況の面的把握に向けたAI画像判別システムの開発と実証


賞状を持つ上石勲特別研究員（左）と
中村一樹センター長（右）

令和7年度雪崩災害防止功労者として表彰されました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの上石勲特別研究員（受賞当時）と山口悟上席研究員が、2025年2月の大雪に際し、専門的な知見から自治体に対し雪崩の危険性の判断や応急対策等について技術的助言を行うなど雪崩災害防止に尽力したとして、令和7年度雪崩災害防止功労者表彰を受けました。


賞状を持つ上石勲特別研究員（左）と
山口悟上席研究員（右）

防災科研 topics

Topicsの詳細や、防災科研の最新ニュース、お知らせ、報道発表は、
防災科研Webサイトにてご覧いただけます。 https://www.bosai.go.jp

第30回「震災対策技術展」横浜に参加しました

2月5日から6日の2日間、第30回「震災対策技術展」がパシフィコ横浜で開催されました。防災科研はブース展示を行い、「J-SHIS（地震ハザードステーション）」などの地震や津波に関するハザード情報を紹介しました。また、セミナーでは、防災科研の寶馨理事長、社会防災研究領域 総合防災情報センターの臼田裕一郎研究領域長、研究共創推進本部 先進防災技術連携研究センターの伊勢正研究統括が講演を行いました。



先名重樹主任専門研究員の基調講演

さらに、6日には防災科研と特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会が共催し、第23回国土セイフティネットシンポジウムを開催しました。本シンポジウムでは「連鎖複合災害への備え」をテーマに、藤原広行研究主監、髙橋成実連携研究フェロー、巨大地変災害研究領域 地震津波複合災害研究部門の中村洋光研究部門長、先名重樹主任専門研究員らの6名が登壇し、会場は満席となりました。同シンポジウムでは、先名重樹主任専門研究員による基調講演「地震被害と地盤構造の関係―地震被害推定のための地盤構造モデル構築の取り組み―」に加え、光ファイバセンシング技術の開発・応用や文部科学省科学技術試験研究委託事業南海トラフ地震防災研究プロジェクト（NanTR）を紹介し、連鎖複合災害に備えるための研究開発の現状と方向性を示しました。

令和7年度 第3回災害レジリエンス共創研究会「自治体データ利活用で拓く災害対応の未来」

3月10日、令和7年度 第3回災害レジリエンス共創研究会を防災科研東京会議室（東京都港区）およびオンラインで開催し、約220名が参加しました。本研究会では、能登半島地震で被害を受けた輪島市、兵庫県立大学、防災科研におけるデータ活用の事例に加え、北九州市におけるデータ活用の取り組みなどを紹介しました。これらの事例を通じて、災害時における状況把握や意思決定に資するデータ活用の重要性が示されるとともに、自治体・研究機関・関係機関が連携してデータを活かすことの意義について、多角的な議論が行われました。



令和7年度 第3回災害レジリエンス共創研究会の登壇者

輪島市住民復興調査結果報告会を開催

防災科研は、災害復興と支援の在り方を考えるための科学的知見を得ることを目的に、2025年11月に「輪島市住民復興調査」を実施し、7740人から回答を得ました。その結果を報告する機会として、2026年3月23日に石川県輪島市の「NOTOMORI」で、「地域が災害から復興する『力』とは―輪島市住民復興調査のデータから―」をハイブリッド形式で開催し、会場40名、オンライン260名が参加しました。防災科研 災害過程研究部門では、調査結果を地域ごとに取りまとめ、今後の復興施策に生かしていく方針です。



輪島市住民復興調査結果報告会の様子

一般公開を開催

4月18日、防災科研つくば本所にて、一般公開を開催しました。当日は小学生の親子連れを中心に約2200人が来場し、会場は終日にぎわいを見せました。

大型降雨実験施設では、降水量毎時300mmの豪雨を再現し、多くの来場者がその激しさを体感しました。また、防災科学の最前線を研究者自らが紹介する「研究者のおはなし」では、会場に入りきらないほどの参加者で盛況となりました。

本年は新たな試みとして、雷の発生を学ぶ実験や雪かきの疑似体験のほか、避難ルートを考える「あんしんルート」見つけ隊など、親子で実践的に学べる企画を展開しました。

さらに、各研究部門による実験や工作のブースでは、研究者が直接解説を行い、来場者は楽しみながら防災について学びました。こうした多彩なプログラムを通じ、科学の視点から防災を身近に感じる一日となりました。



豪雨体験の様子



研究の最前線を、研究者自らがわかりやすく伝える「研究者のおはなし」



重さの違う模擬雪を使い、雪の特性を体験できる「雪かきバスケット」



親子で避難ルートを考え、安全な行動を体験的に学ぶことができる「あんしんルート見つけ隊」



将来の災害に備え、J-SHISなどの研究成果をもとに、今できる対策を考えるための展示



ストローで家をつくり、防災科研の実験施設「E-ディフェンス」をモデルにした振動実験



地震の仕組みを学びながらペットボトルを使った地震計づくりを体験



謎解きを通して、防災の知識と身を守る力を楽しく学ぶ体験プログラム



模型（河川地形実験装置）に触れながら川の流れや地形の変化の仕組みを学ぶ体験



メントスとコーラを使い、噴き上がる現象を再現する火山噴火の模擬実験

防災科研 topics

令和8年度版学習資料「一家に1枚」を防災科研が企画・監修

文部科学省が科学技術週間にあわせて毎年制作する学習資料「一家に1枚」の第22弾「身近な現象から知る地球　自然と生きる列島」（略称：地球）は、防災科研が企画・監修しました。

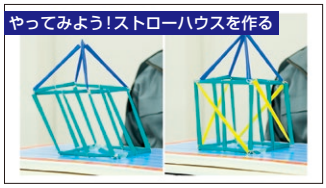
近年、気候変動などの影響により自然災害のリスクが高まる中、地球上で生じるさまざまな現象の仕組みを知り、自然と共に生きるための科学的視点を広く社会に伝えることを目的としています。

本ポスターは、4月18日に開催された防災科研の一般公開で来場者全員に配布したほか、全国の小学校・中学校・高等学校、大学などの教育機関に加え、配布にご協力いただける全国の科学館、博物館、公立図書館などでも配布されています。

下記の特設Webサイトでは、ポスター掲載内容の詳しい解説に加え、「火山噴火の再現実験」や「ストローハウスの製作」など、家庭や学校で体験できる実験・工作に関する動画や資料を公開しています。







特設Webサイト
https://www.bosai.go.jp/poster-earth/

配布協力機関一覧
https://www.mext.go.jp/stw/haifu.html

防災科研ニュース
2026　No.233
2026年6月30日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください　e-mail：k-news@bosai.go.jp

■発行　国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006　茨城県つくば市天王台3-1　企画部 広報課
防災科研ニュース係　TEL.029-863-7784　FAX.029-863-7699
●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます（https://www.bosai.go.jp/）

ISSN 2758-1195